

令和3年度看護学科入学者選抜試験国語総合

問題 次の文章は、『言葉と思考』（今井むつみ著/岩波新書）の序章「ことばから見る世界—言語と思考」です。よく読んで後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、一部を省略したり表記を変更したりしています。

引用文省略

問1 下線部①から⑦は漢字を用いてどのように表記できるか。カタカナを書き換えなさい。

- ①ヨウイ（容易） ②カツぐ（担ぐ） ③ジュクリョ（熟慮） ④シサク（思索）
⑤ホウカツテキ（包括的） ⑥ドウサツ（洞察） ⑦バクゼン（漠然）

問2 下線部AからCの表現はどのような意味か。本文の文脈に沿って他の表現で書き換えなさい。

- A ひな形
B 枚挙にいとまがない
C 是か非か

問3 下線部ア〈どのような基準で言語のバリエーションを同一言語としたり、別の言語とみなしたりするかによって、この数字は大きく異なる〉とはどのような意味か。身近な例を挙げて具体的に説明しなさい。

問4 下線部イ〈様々な状況で行われる、無限に存在する動作を、同紙によってカテゴリー化し、整理している〉とはどのような意味か。「走る」「歩く」「跳ぶ」を例にして、これらを同じカテゴリーとする場合と別のカテゴリーとする場合の基準について具体的に説明しなさい。

問5 下線部ウ〈私たちが「見ている」世界は、言葉が切り分ける世界そのものだろうか。〉に述べられている「ことばが切り分ける世界を見る」ということはどういうことか。本文中の言葉を使って、20字以内で説明しなさい。

問6 下線部エ〈冒頭の問題〉とは何か。本文から抜き出し、最初と最後の7文字を書きなさい。句読点や記号等も文字とする。

問7 下線部オ〈世界の様々な言語での世界に切り分け方が、日本語で私たちが当たり前だ

とっていた分け方といかに違うか〉を意味を変えないで、「日本語での世界の切り分け方」を書き出しにして書き換えなさい。その際、翻訳不可能」という語句を必ず使用すること。

問 8 本書『言葉と思考』を読むことでどのような知見を得られると考えられるか。また、そのことを看護師としての資質や能力を伸ばしていく看護学校での学習にどのように役立たせることができそうか。本書を構成しているいくつかの章を取り上げ、そこに係れている内容を想像して、あなたの考えを 400 字以内で具体的に述べなさい。